

## 6. 基地常駐機及び主な飛来機

### (1) 基地常駐機

#### ● ロッキード・マーティン C-130J

『スーパーハーキュリーズ』

ターボプロップ4発の軍用中距離輸送機。

昭和50年9月、沖縄県の基地から移駐した第345戦術空輸部隊の主力機であり、平成31年4月に、C-130HからC-130Jに交代を完了した。

横田基地で年間を通じて離発着が多い機種であり、日常的に訓練が行われている。



#### ● CV-22

『オスプレイ』

回転翼軸の角度を変更できるティルトローター式の輸送機

平成30年4月に初めて横田基地に飛来。同年6月に一時飛来後は継続して駐機し、周辺を飛行した。同年10月に5機が正式配備された。

ヘリコプターのように飛行する垂直離着陸モードや転換モードでの飛行は特に騒音が大きく、多くの苦情が寄せられている。



#### ● ビーチクラフト C-12J

『ヒューロン』

双発のターボプロップ機で、貨物や乗客輸送のほか医療救援にも使用される。



●ベル UH-1N

『ヒューイ』

中型単発汎用タービンヘリコプター。  
基地周辺での訓練時には、低空で市街地上空を旋回飛行するため、苦情が寄せられる。



(2) 米軍の主な飛来機

●ロッキード・マーティン C-5

『ギャラクシー』

ジェット4発の世界最大級の輸送機。激しい騒音を発し離着陸飛行直下では、110dB(A)を越えるとともにすさまじい威圧感がある。



●ボーイング C-17

『グロブマスター』

ジェット4発の新型の軍用輸送機。  
搭載量はC-5並みで、機体寸法はC-141程度、離着陸性能はC-130以上という目標により開発。  
機体はC-141より太く、米陸軍のM1戦車の搭載が可能である。



●ボーイング KC-10

『エクステンダー』

ジェット3発の空中給油機、貨物輸送機。DC-10-30CFの軍用型機。



●ボーイング KC-135

『ストラトタンカー』

ジェット4発の空中給油機、貨物輸送機。民間型のB707型の軍用型。

従来はすさまじい騒音であったが、最近では低騒音型のエンジンになっている。



●ボーイング F-15

『イーグル』

世界のあらゆる戦場に進出し、航空戦を展開し、制空権を確保することを追及した戦闘機。航空自衛隊でも採用されている。

騒音は極めて大きい。



● ロッキード・マーティン F-16

『ファイティングファルコン』

最新技術と大胆な設計で、素晴らしい空中機動力と大きな攻撃力を、軽量小型の機体にまとめた戦闘機である。

パス時、離陸時の騒音は極めて大きい。



● ボーイング F/A-18

『ホーネット』

米海軍、海兵隊の万能の艦上戦闘、攻撃機。2枚の垂直尾翼が外側に20度傾いて取り付けられているのが外観上の特徴である。

パス時、離陸時の騒音は極めて大きい。



● シコルスキー SH-60

『シーホーク』

米陸軍、米海軍の他用途ヘリコプター。米陸軍向けはUH-60ブラックホーク。自衛隊でも採用されている。



●MV-22

『オスプレイ』

米海兵隊に配備されているティルトローター式の輸送機

国内では沖縄県普天間飛行場に配備されており、本州等における訓練時などに給油等の経由地として横田基地に飛来することがある。



(3) 航空自衛隊の主な飛来機

●ガルフストリーム U-4

ビジネスジェット機として各国で広く使用されている。航空自衛隊では主に要人輸送に使用されている。



●ブリティッシュ・エアロスペース U-125

ビジネスジェット機BAE125を転用した機体である。電波により航空機の航行を支援する「航空保安無線施設」の動作確認を行うための自動飛行点検装置を搭載している。



●川崎 T-4

中等練習機としてのほか、連絡・支援任務にも使用され、ブルーインパルスの機体としても有名である。

ビジネスジェット機をベースとした先の2機種に比べ、騒音は大きい。



●ボーイング(川崎) CH-47J  
『チヌーク』

ボーイング社の開発した大型輸送ヘリコプターを日本仕様にしてライセンス生産された機体。人員55名、あるいは約11トンの物資輸送が可能であり、航空自衛隊では基地間の人員や機材の輸送に使用されている。

